

平成28年度 特別養護老人ホームネバーランド 事業報告書

1. 施設の概要

(1)介護保険法

- ・ 介護老人福祉施設 (定員50名)
- ・ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (定員20名)
- ・ 短期入所生活介護 (定員22名)

(2)障害者総合支援法

- ・ 短期入所 (空床対応)

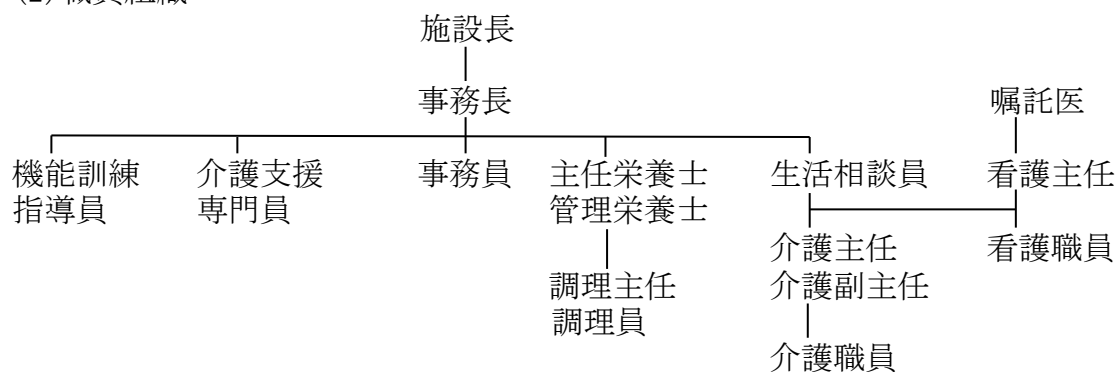
2. 職員配置数

(1)職種別人員

[単位:人]

職 種	基準数(従来型)	現員(従来型)	基準数(ユニット型)	現員(ユニット型)
施 設 長	1	1	1	1
生活相談員	1	2	1	1
介護職員	23	33	8	11
看護職員	3	5	1	1
機能訓練指導員	1	1	1	1
介護支援専門員	1	1	1	1
医 師	必要数	1	必要数	1
栄 養 士	1	2	1	2
調 理 員		2		1
事 務 員		4		1
合 計	32	52	15	21

(2)職員組織

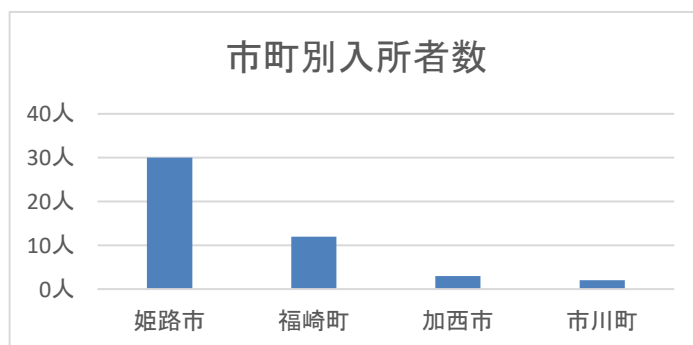


3. 入所者の状況

(1)従来型特養市町別入所者数

市町名	人数	割合
姫路市	30人	60%
福崎町	12人	24%
加西市	3人	6%
市川町	2人	4%
合 計	47人	94%

※平成28年3月31日現在



(2) 年齢別・性別入所者数

[単位:人]

年 齢	従 来 型			ユ ニ ッ ト 型		
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計
60歳未満	0	0	0	0	0	0
60～64歳	0	0	0	0	0	0
65～69歳	1	1	2	0	0	0
70～74歳	1	0	1	0	0	0
75～79歳	1	1	2	0	2	2
80～84歳	2	4	6	2	2	4
85～89歳	3	10	13	0	3	3
90～94歳	2	11	13	0	2	2
95～99歳	1	8	9	1	1	2
100歳～104歳	0	0	0	0	0	0
105歳以上	0	1	1	0	0	0
合 計	11	36	47	3	10	13

(3) 平均年齢及び最高年齢・最低年齢

[単位:歳]

	従 来 型			ユ ニ ッ ト 型		
	男 性	女 性	全 体	男 性	女 性	全 体
平均年齢	83.7	89.6	88.2	86.3	86.3	86.3
最高年齢	95	105	105	91	95	95
最低年齢	66	68	66	84	79	79

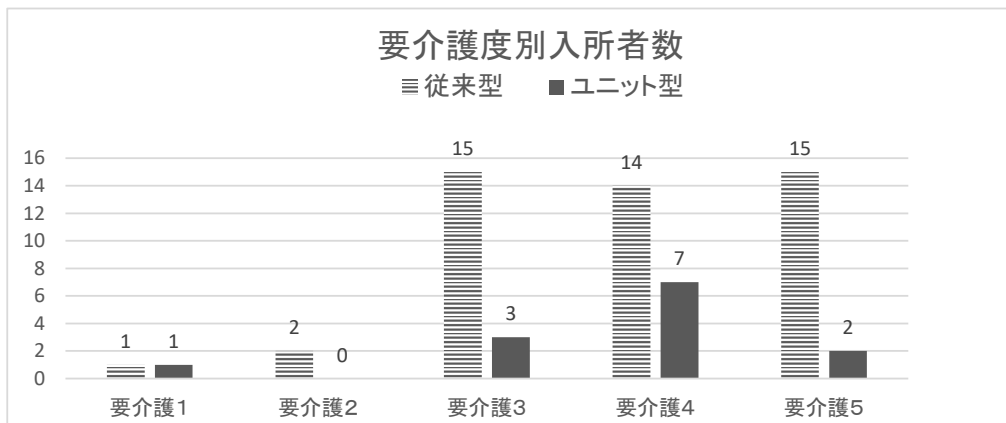
(4) 在籍年数別入所者数

[単位:人]

	従 来 型			ユ ニ ッ ト 型		
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計
1年未満	6	7	13	3	10	13
1～3年未満	1	10	11	0	0	0
3～5年未満	0	4	4	0	0	0
5～10年未満	2	10	12	0	0	0
10～15年未満	1	3	4	0	0	0
15年以上	1	2	3	0	0	0
合 計	11	36	47	3	10	13

4. 要介護度別入所者数 [単位:人]

要介護度	従来型		ユニット型	
	全体	割合	全体	割合
要介護1	1	2%	1	8%
要介護2	2	4%	0	0%
要介護3	15	32%	3	23%
要介護4	14	30%	7	54%
要介護5	15	32%	2	15%
合計	47	100%	13	100%



※平均要介護度 [単位:要介護度]

	従来型	ユニット型
平成28年度	3.85	3.69
平成27年度	3.76	
平成26年度	3.4	

5. 認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	[単位:人]	
		従来型	ユニット型
自立	認知症を有していない。	0	1
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	1	3
Ⅱa	家庭外で、日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られても、誰かが注意していれば自立できる。	0	0
Ⅱb	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	6	1
Ⅲa	日中を中心として、日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	15	4
Ⅲb	夜間を中心として、日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	2	1
Ⅳ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	19	1
M	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する。	4	2
合計		47	13

6. 入所者の日課

7:00	起床、着替え、洗面	・一般浴、チェアー浴(毎日)
7:45	朝食	
8:30	口腔清拭	・クラブ活動(療育音楽、書道など)
8:50	ラジオ体操	
10:30	クラブ活動・喫茶/入浴	・手作りおやつ(火曜日、木曜日の午後)
11:30	昼食準備	
12:00	昼食	・誕生会(第3木曜日)
12:50	口腔清拭	
14:00	レクリエーション/入浴	・選択食:昼食(月曜日、水曜日、金曜日)
15:00	喫茶・手作りおやつ/入浴	
17:30	夕食	・御膳料理:昼食(月1回)
18:50	口腔清拭	
19:30	ナイトケア	
20:30	消灯	

7. ボランティア

火～金曜日	喫茶手伝い(ひなぎく)
第1、第3月曜日	手芸:利用者の日用品や衣類の繕い等(ひなぎく)
第2、第4土曜日	書道(個人ボランティア)
5月、11月	動物介在活動(姫路開業獣医師会)
4月22日	合奏(和楽座)
5月10日	歌(三つ葉のぞみ会)
11月18日	マッサージ(姫路保険鍼灸マッサージ師会)

8. 行事及び内容

(1) 家族会合同行事

4月10日	お花見	お弁当を食べながら、本館玄関前の桜見を楽しむ。
9月11日	敬老会	バリーホールにて慶事の表彰と、療育音楽・運動会を楽しむ。
10月22日	ネバーランド祭り	第一駐車場にて盛大に行う。
12月11日	クリスマス会	バリーホールにてハンドベルや療育音楽を楽しむ。
2月19日	ひな祭り会(中止)	※ 感染症対策の為、中止

(2) 施設内行事

<従来型>

4月19日	たこ焼き作り	おやつのに時間に、たこ焼き作りを行い、皆で食べる。
5月11日	うどん実演	昼食時に、うどんの湯きり・盛り付け実演を行う。
6月9日	合同慰霊祭	亡くなられた故人を偲び、慰霊祭を行う。
6月22日	網焼き実演	昼食時、ピロティで、網焼き実演を行う。
7月27日	そうめん流し	昼食時に、流しそうめん器を使用した、そうめんを食べる。
8月13日	お好み焼き実演	昼食時に、お好み焼き実演を行う。
8月24日	花火大会	第一駐車場での打ち上げ花火や、手持ち花火を楽しむ。
9月1日	すいか割り	食堂にて、すいか割りを行い、皆で食べる。
9月13日	水ようかん実演	水ようかんの盛り付けを鑑賞し、皆で食べる。
10月8日	地域祭り見学	施設に来所した仁色地区の屋台を見学する。
10月9日	地域祭り見学	施設に来所した上野地区の屋台を見学する。
10月12日	焼きそば実演	昼食時に、焼きそば実演を行う。
11月8日	ベビーカステラ実演	ピロティにて、ベビーカステラ実演を鑑賞し、皆で食べる。
12月15日	クリスマスケーキ作り	おやつのに時間に、クリスマスケーキ作りを行い、皆で食べる。
12月21日	忘年会	昼食時に、鍋料理を食べ楽しむ。
1月1日～3日	正月集会	書初め、かくし芸、歌合戦等の遊びを楽しむ。

<ユニット型>

8月19日	かき氷作り	おやつのに時間に、かき氷作りを行い、皆で食べる。
8月24日	花火大会	第一駐車場での打ち上げ花火や、手持ち花火を楽しむ。
8月25日	すいか割り	おやつのに時間に、すいか割りを行い、皆で食べる。
10月8日	地域祭り見学	施設に来所した仁色地区の屋台を見学する。
10月9日	地域祭り見学	施設に来所した上野地区の屋台を見学する。
10月11日	焼きそば実演	テラスにて、焼きそば実演を鑑賞し、皆で食べる。
11月10日	健康体操	フィットネスインストラクターを招き、健康体操を行う。
12月22日	クリスマスケーキ作り	おやつのに時間に、クリスマスケーキを作り、皆で食べる。
12月27日	忘年会	昼食時に、鍋料理を食べ楽しむ。
1月2日	書初め	お正月行事として、書初めを行う。
1月4日	新年会	絵馬作りを行う。
1月12日	たこ焼き作り	おやつのに時間に、たこ焼き作りを行い、皆で食べる。
1月25日	ホットケーキ作り	おやつのに時間に、ホットケーキ作りを行い、皆で食べる。
2月1日	クレープ作り	おやつのに時間に、クレープ作りを行い、皆で食べる。
3月15日	おはぎ作り	おやつのに時間に、おはぎ作りを行い、皆で食べる。

(3)施設外行事(外出)

<従来型>

4月8日	お花見ドライブ(香寺町、船津町周辺)
4月26日	加西フラワーセンター(加西市)
5月12日	後楽園(岡山市)
5月26日	うどん屋・丸亀製麺(福崎町)
6月3日	姫路バラ園(豊富町)
7月9日	加西イオン、買い物(加西市)
10月4日	神南中学校文化発表会見学(船津町)
1月9日	とんど見学(船津町瑞岡地区)

<ユニット型>

8月31日	サーティーワン福崎店(福崎町)
9月14日	加西イオン、買い物(加西市)
9月15日	喫茶店、明日香福崎店(福崎町)
9月17日	神南中学校運動会見学(船津町)
11月1日	船津小学校校内音楽会見学(船津町)
11月16日	お好み焼き店、梟(豊富町)
1月4日	瑞岡神社初詣(船津町瑞岡地区)
1月9日	とんど見学(船津町瑞岡地区)

※1月～3月末まで、感染症対策の為、外出を控える。

9. 学校関係

(1)実習受入

5月30日～6月17日	播磨特別支援学校(1名)
8月8日～9月2日	神戸医療福祉大学2年生 介護実習(3名)
9月12日～9月16日	兵庫県立大学 栄養士実習(3名)
3月6日～3月10日	神戸女子大学 栄養士実習(2名)

(2)ボランティア

7月1日	日ノ本学園高等学校(1名)
7月26日	賢明女子学院(3名)
12月28日	賢明女子学院(5名)

(3)トライやる・ウィーク受入

5月30日～6月3日	豊富中学校 2年生(3名)
6月6日～6月10日	神南中学校 2年生(3名)

(4)慰問

10月6日	船津小学校4年生(37名)
-------	---------------

10. 目標達成率

(1)特別養護老人ホーム

一日平均 利用者数	目標	結果	達成率	95.3%
	49名/日	46.7名/日		

(2)ショートステイ

一日平均 利用者数	目標	結果	達成率	79.0%
	21名/日	16.6名/日		

(3)ユニット型特別養護老人ホーム

一日平均 利用者数	目標	結果	達成率	57.3%
	19名/日	10.9名/日		

11. 実績結果に対する考察

(1) 特別養護老人ホーム

平成28年度の1日平均利用者数の実績は、46.7人と目標(49人)より2.3人少ない結果となった。

目標を下回った原因として、退所者が15名と、例年より約2名多かった事と、入院等の回数も43件と例年より約4件多かった事が挙げられる。また、退所日から次の新しい方の入所日までの調整期間は、例年まで約1週間以内であったが、平成28年12月より入所後の施設での対応可能な医療的ケアの見極めを行う為、「入所前健康診断書」提出の導入を実施する事により、平成28年度の入所調整期間が平均21.3日と約3倍の期間になった事も空床期間の延長要因の一つとなっている。

入院の1回平均日数は19.7日間で、原因疾患として、1位・2位:食欲不振(7回)・肺炎(7回)、3位・4位:心不全(3回)・脱水(3回)の順となっている。

高齢化に伴う老衰により食欲不振に陥るケースが多くなり、今まで行ってこなかった看取り介護を嘱託医の協力のもと、平成28年度は2件行った。平成29年度も同様のケースが多くなると思われる為、嘱託医の協力と、当該利用者の状態や家族(身元引受人)の意向の調整が必要と思われる。

(2) ショートステイ

平成28年度の1日平均利用者数の実績は、16.6人と目標(21人)より4.4人少ない結果となった。

目標を下回った原因として、ショートステイの定期利用者が、平成28年度に開設された当法人のユニット型特別養護老人ホームとグループホームに入所された事と、ショートステイの利用希望が土日祝日に集中しており、土日祝日が満床の為利用をお断りしてしまうというケースが何度かあった。また、逆に平日はデイサービス等の他の在宅介護サービスを利用しているケースが多く、平日のショートステイに空床が見られた。もう一つの原因として、平成29年1月末から2月中旬まで、特養利用者でインフルエンザを発症した為、感染の伝播・拡大を防ぐ事を目的とし、ショートステイの受け入れを一部制限した事により、1月・2月の実績は低くなっている。

FCL利用者【障害者総合支援法】の利用者は3名の定期利用が定着しており、少しずつではあるが、サービスの増加につながっている。

(3) ユニット型特別養護老人ホーム

平成28年度の1日平均利用者数の実績は、10.9人と目標(19人)より8.1人少ない結果となった。

目標を下回った原因として、平成28年度中に満床(20床)にできなかったことが大きな原因である。満床にできなかった理由として、特養入所申込者は平成29年3月末で173名と多くあるが、入所の条件として、姫路市に住所がある方、要介護3以上の方、兵庫県作成の入所コーディネートマニュアルに基づき入所可能な方となると、52名まで絞られる。その中でも医療依存度の高い方、認知症の周辺症状が多く対応困難な方、家族等の協力が見込まれない方等の対応困難な方が多く、平成28年度は、15名の入所(内3名が長期入院等でその後退所)にしか至らなかった。平成29年度は、同法人のサービス利用者の方にも入所申込みを勧め、早期の満床と日々の健康管理に努めたい。

12. 平成28年度事業計画に対する結果と考察

平成28年7月のユニット型特養の開設に伴い、昨年同様人材育成に力を入れた。スキルアップ委員会を中心とした、新人職員・中堅職員等、キャリア別のプログラムをもうけ、講義形式の研修やグループワーク等の勉強会を行った。その結果、中堅職員は、指導のやり方や現状で困っている事などの整理ができ、新人は基本となる考え方やケアの方法などを学べた。また、中堅リーダーを中心に、サービス担当者会議・栄養ケア会議・リハビリカンファレンスに出席し、利用者の状態や環境を適格にとらえる為、個(1人)の存在を意識する個別ケアを学び、他の職員に周知する事の学びと実践ができた。